

BCCWJ における三点リーダーとその亜種の使用実態の定量的分析

酒井 拓人 (愛知学院大学心理学部) [†]

A Quantitative Analysis of the Usage of Ellipsis and Its Variants in BCCWJ

Takuto Sakai (Faculty of Psychology, Aichi Gakuin University)

要旨

本研究では、『現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)』における三点リーダーとその亜種 (二点リーダー、句点・読点・中黒・ピリオドの連続使用) の使用実態を分析した。BCCWJ から各記号を含む文を抽出した結果、三点リーダーが最も多く、次いで中黒、句点、ピリオド、読点、二点リーダーの順であった。三点リーダーは法律を除く全レジスターで確認されたが、亜種はほとんどがブログと知恵袋レジスターでのみ確認された。これは出版時の校正や BCCWJ 作成時の文字入力仕様の影響と考えられる。また、二点リーダーを除く亜種の連続使用個数を集計した結果、平均値は約 3~6 個とばらつきがあった。ただし、すべての記号で中央値や最頻値が 3 個であった点や最長連続使用個数が 3 個である文の出現頻度が最多であった点などから、書き手が「三点」を意識して亜種を使用している可能性が示唆された。

1. はじめに

文章を書く際に用いられる記号の一つに三点リーダー (…) がある。三点リーダーは、文章や語句同士を結ぶ用途や文や言葉の省略、無言や間があることの表現として使われており、その使用範囲は小説などの文芸作品から公用文、インターネット上のテキストコミュニケーションなど多岐にわたっている。また、三点リーダーには「亜種」 (清 2022) と呼ぶことができる記号が存在し、二点リーダー (⋯) と、句点 (。)、読点 (、)、中黒 (・)、ピリオド (.) の連続使用が該当する。特に後者の 4 つは、電子メールやインターネット掲示板、SNS、チャットアプリなどで三点リーダーの代替として使用されている (小学館辞典編集部 2007, 清 2022, 浦 2024)。そのため、本稿ではこれら亜種も含めて三点リーダーとみなし、分析対象とする。

2. 先行研究

三点リーダーを対象とした先行研究は、浦 (2024) が指摘するように、これまでは小説における用例についてダッシュと比較を通して検討されていた (山木 1962, 遠藤 1962, 安井 2006, 新實 2019)。しかし、近年ではコーパス資源の整備の進展やインターネット・SNS の発達などにより、様々なジャンルの文章における三点リーダーの用例について検討が可能となった。その中でも『現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)』 (前川ほか 2014) における用例を検討した研究として、清 (2022) および浦 (2024) が挙げられる。清 (2022) は Twitter と BCCWJ での三点リーダーの用法を調査し検討した。その結果、区切りとして

[†] tsakai@dpc.agu.ac.jp

の用法（符号的用法）と文章表現としての用法（記号的用法）の2つの用法に分類できること、また、文末へ付与されやすい点や記号単体として独立して用いられることは少ない点といった三点リーダー使用の特徴を報告している。ただし、BCCWJの調査については、「中納言」の書字形出現形で「…」を検索して得られた143,369件の検索結果から無作為抽出した300件（約0.02%）のみが対象となっている。したがって、亜種についてはTwitterの用例のみが対象となっており、BCCWJにおける亜種の用例は検討されていない。また、調査対象の文がどのレジスターに属していたかといった情報は報告されていない。

浦（2024）はBCCWJとLINEにおける文末の「亜種を含むリーダー+感嘆符」の組み合わせについて調査を行っており、BCCWJでは三点リーダー（…!）、中黒（・・!）、句点（。!）、読点（、!）と感嘆符の組み合わせが出現していたことを確認している。また、書籍レジスターや雑誌レジスターでは三点リーダーと感嘆符の組み合わせのみ出現した一方で、亜種は知恵袋、ブログレジスターのみで確認されたこと、記号の数と感嘆符の数の組み合わせは様々なバリエーションがあったことを報告している。しかし、二点リーダーとピリオドについては調査の対象になっておらず、また、そもそも亜種の連続使用が全体としてどの程度存在していたかについては調査されていない。

3. 目的

以上のように、BCCWJにおける三点リーダーとその亜種の使用について検討した先行研究では、三点リーダーを含む文がどのレジスターにどの程度存在するかといった点や、二点リーダーならびに句点・読点・中黒・ピリオドの連続使用といった亜種を含む文がそもそもどの程度存在するかという点が明らかになっていないなど、いくつか検討点が残されている。そこで本研究では、BCCWJにおける三点リーダーとその亜種の使用実態について、定量的な集計を行い使用傾向の一端を明らかにすることを目的とする。

4. 方法

4.1 データ抽出

「中納言」を用いてBCCWJから三点リーダーとその亜種が含まれる文を検索し抽出した。検索は文字列検索で行い、キー表示形式を「文字列全体」にしたうえで正規表現を使用して文の抽出を試みた¹。検索文字列は、三点リーダーと二点リーダーは「`^.*記号+.*$`」、句点・読点・中黒・ピリオドは「`^.*記号{2,}.*$`」とした²。三点リーダーと二点リーダーは1個で複数の点を表しており、1個でリーダーとしての使用とみなせることから、直前のパターンの1回以上の繰り返し（+）を使用した。一方で、句点・読点・中黒・ピリオドは1個で1つの点しか表すことができず、1個以上の使用で抽出すると通常の句読法と見分けがつかない。そのため、浦（2024）と同様に2個以上の連続使用でリーダーとしての使用とみなし、正規表現は直前のパターンの2回以上の繰り返し（{2,}）を使用した。また、行頭（^）と行末（\$）で囲うことで、文区切り文字間の文字列の抽出が可能であった。したがって、本稿における1文とは中納言における文区切りによる1文を指す。

¹ 筆者が中納言講習会に参加した際に、文字列検索において正規表現の使用は対応しているか質問したところ、担当者の方からはおそらく使用可能だがどの程度まで対応しているか把握していないので試してほしいという旨の返事をいただいた。そのため、その実証もかねて文字列検索で正規表現による検索を行った。

² これは最長一致による検索となるが、全ての要素を最短一致（三点・二点リーダー：「`^.*記号+.*?$`」／他：「`^.*記号{2,}?.*?$`」）としても、検索結果数は変わらなかった。

4.2 分析

抽出した文は R version 4.4.2 (R Core Team 2024) 上で集計した。集計には Tidyverse パッケージ (Wickham et al. 2019) で提供されている関数を用いた。

5. 結果と考察

5.1 各記号を含む文の数

まず、表 1 に BCCWJ における三点リーダーならびにその亜種が含まれている文の数を示す。

表 1 各記号が含まれている文の数

レジスター	三点リーダー		二点リーダー		句点		読点		中黒		ピリオド	
	件数	(割合)	件数	(割合)	件数	(割合)	件数	(割合)	件数	(割合)	件数	(割合)
出版・書籍	34165	(27.48%)	141	(10.41%)	11	(0.04%)	29	(0.57%)	19	(0.02%)	7	(0.14%)
出版・雑誌	4790	(3.85%)	10	(0.74%)	1	(0.00%)	2	(0.04%)	0	(0.00%)	0	(0.00%)
出版・新聞	619	(0.50%)	1	(0.07%)	0	(0.00%)	0	(0.00%)	1	(0.00%)	0	(0.00%)
図書館・書籍	41541	(33.42%)	78	(5.76%)	3	(0.01%)	12	(0.24%)	4	(0.00%)	4	(0.08%)
特定目的・白書	211	(0.17%)	0	(0.00%)	0	(0.00%)	2	(0.04%)	0	(0.00%)	0	(0.00%)
特定目的・教科書	1285	(1.03%)	0	(0.00%)	0	(0.00%)	0	(0.00%)	0	(0.00%)	5	(0.10%)
特定目的・広報紙	6763	(5.44%)	10	(0.74%)	0	(0.00%)	1	(0.02%)	0	(0.00%)	2	(0.04%)
特定目的・ベストセラー	6034	(4.85%)	3	(0.22%)	0	(0.00%)	1	(0.02%)	0	(0.00%)	0	(0.00%)
特定目的・知恵袋	7100	(5.71%)	247	(18.24%)	10991	(43.33%)	1545	(30.29%)	33748	(38.39%)	1967	(38.49%)
特定目的・ブログ	21399	(17.21%)	864	(63.81%)	14357	(56.60%)	3509	(68.79%)	54141	(61.58%)	3125	(61.15%)
特定目的・韻文	137	(0.11%)	0	(0.00%)	0	(0.00%)	0	(0.00%)	0	(0.00%)	0	(0.00%)
特定目的・法律	0	(0.00%)	0	(0.00%)	0	(0.00%)	0	(0.00%)	0	(0.00%)	0	(0.00%)
特定目的・国会会議録	274	(0.22%)	0	(0.00%)	1	(0.00%)	0	(0.00%)	0	(0.00%)	0	(0.00%)
計	124318	(100%)	1354	(100%)	25364	(100%)	5101	(100%)	87913	(100%)	5110	(100%)

注：件数は各記号の併用による重複を含む。

合計件数に着目すると、三点リーダーを含む文が一番多く、次いで中黒、句点、読点、ピリオド、二点リーダーの順となった。一文字で複数の点を表す三点リーダーと二点リーダーでは、三点リーダーを含む文が 90 倍以上も多かった。これに関しては、小学館辞典編集部 (2007) の「現在は三点リーダーが普通で、二点リーダーはあまり使われない」(p.67) という記載に合致する結果といえるだろう。また、亜種の中では中黒が特に多く、二点リーダーは他と比べて少ない。この結果は清 (2022) の Twitter の調査結果と類似しており、亜種による代用では中黒が使われやすく、二点リーダーはあまり使用されないことがうかがえる。

次にレジスターに着目すると、三点リーダーは法律を除いたすべてのレジスターで使用されていたが、亜種はほとんどが知恵袋、ブログレジスターで出現していた。また、亜種の中では二点リーダーとその他で若干傾向が異なり、二点リーダーは出版・書籍レジスターや図書館・書籍レジスターでの使用がみられた一方で、句点、読点、中黒、ピリオドは約 99% が知恵袋、ブログレジスターでの使用であった。亜種によるリーダーの表現はあくまで代用

であり、校正作業を経るであろう紙媒体の出版物ではそれらが三点リーダーや二点リーダーに修正されていることが考えられる。また、後述する BCCWJ 作成時の文字入力仕様も影響があったと思われる。なお、法律レジスターでは全ての記号が 0 件だったため、以降の分析では法律レジスターは考慮しないものとする。

また、留意点として、三点リーダーの検索結果のヒット数の違いを述べる。清 (2022) は、短単位検索の書字形出現形で「…」と入力した結果として 143,369 件のヒットがあったことを報告している。しかし、短単位検索の語彙素で「…」と入力すると 143,261 件がヒットした。また、文字列検索で「…」と入力した場合の検索結果、ならびに本稿の方法で得られた文から「…」の個数を R 上で集計した場合はどちらも 143,407 件となった。このように、検索結果のヒット数が語彙素 < 書字形出現形 < 文字列検索の関係となっており、いくつかの三点リーダーは短単位では三点リーダーと判定されていないことがわかる。

5.2 三点リーダー・二点リーダー

ここからは、本研究の対象とした記号のうち、1 文字で複数の点を表すことができる三点リーダーと二点リーダーの結果を先に述べる。まず、1 回の使用における各記号の連続使用個数を集計した結果を表 2 に示す。

表 2 1 文中の三点リーダー・二点リーダーの使用個数

連続使用 個数	三点リーダー		二点リーダー		連続使用 個数	三点リーダー		二点リーダー	
	件数	(割合)	件数	(割合)		件数	(割合)	件数	(割合)
1	136765	(98.09%)	932	(65.13%)	16	2	(0.00%)	0	(0.00%)
2	2215	(1.59%)	468	(32.70%)	17	1	(0.00%)	0	(0.00%)
3	237	(0.17%)	16	(1.12%)	18	1	(0.00%)	0	(0.00%)
4	124	(0.09%)	1	(0.07%)	19	4	(0.00%)	1	(0.07%)
5	36	(0.03%)	3	(0.21%)	21	1	(0.00%)	0	(0.00%)
6	13	(0.01%)	7	(0.49%)	23	1	(0.00%)	0	(0.00%)
7	2	(0.00%)	1	(0.07%)	26	1	(0.00%)	0	(0.00%)
8	1	(0.00%)	0	(0.00%)	28	1	(0.00%)	0	(0.00%)
9	4	(0.00%)	1	(0.07%)	31	1	(0.00%)	0	(0.00%)
12	3	(0.00%)	1	(0.07%)	32	1	(0.00%)	0	(0.00%)
13	2	(0.00%)	0	(0.00%)	40	1	(0.00%)	0	(0.00%)
14	2	(0.00%)	0	(0.00%)	225	1	(0.00%)	0	(0.00%)
15	2	(0.00%)	0	(0.00%)					

両記号とも 1 個使用している文が最多で、使用数が多くなるにつれて頻度が低くなっていった。ただし、三点リーダーは 1 個使用の文が全体の 98% を占めていたのに対して、二点リーダーは 1 個使用が約 65%、2 個連続使用が約 33% と若干の違いが見られた。

次に、各記号の連続使用の有無についてレジスターごとに集計した結果を表 3 に示す。表 3 における単発使用とは 1 回の使用につき 1 個だけ記号が用いられていたことを指し、例え

ば「これは例文です…」や「これは…例文です…」といった用例が該当する。連続使用は1回の使用につき2個以上連続して記号が用いられていたことを指し、「これは例文です…」や「これは……例文です……」のような用例が該当する。

表3 1文中における各記号の連続使用の有無

レジスター	三点リーダー		二点リーダー	
	単発使用	連続使用	単発使用	連続使用
出版・書籍	34160	5	139	2
出版・雑誌	4788	2	10	0
出版・新聞	619	0	1	0
図書館・書籍	41538	3	78	0
特定目的・白書	211	0	0	0
特定目的・教科書	1285	0	0	0
特定目的・広報紙	6763	0	10	0
特定目的・ベストセラー	6034	0	3	0
特定目的・知恵袋	6758	342	208	39
特定目的・ブログ	19590	1809	427	437
特定目的・韻文	136	1	0	0
特定目的・国会会議録	5	269	0	0
計	121887	2431	876	478

単独：1個のみ使用／連続：2個以上連続の使用

三点リーダーにおいては、知恵袋、ブログ、国会会議録レジスター以外ではほぼ単発使用のみとなった。知恵袋、ブログレジスターでは連続使用がみられたものの単発使用と比べるとそれほど多くなかった。一方で、国会会議録レジスターではほとんどが連続使用であった。二点リーダーはブログレジスターでは単発使用と連続使用が同程度の頻度であったが、それ以外のレジスターでは単発使用がほとんどを占めていた。

さらに細かい内訳を表4に示す。表4における単発は単発使用、連続は連続使用を表す。また1文中での出現について、1回は1回のみ出現、複数回は2回以上の出現、混合は単発使用と連続使用がそれぞれ1回以上出現したことを表す。

両記号とも単発使用と連続使用のどちらにおいても1文中に1回使用される用例の方が多かった。三点リーダーの単発使用については、清(2022)が文中の位置にかかわらず単発使用の割合が最も多いことを、浦(2024)が三点リーダー1つと感嘆符の組み合わせが最多であったことを報告している。これらはBCCWJ全体として三点リーダーの単発使用が多かったことに由来しているといえるだろう。

しかしながら、この結果をもって三点リーダーは単発使用される傾向があると結論付けることはできない。なぜなら、BCCWJのうち一部のレジスターは、電子化の際の文字入力仕様の影響を受けていると考えられるからである。西部ほか(2011)によれば、出版サブコ

表4 1文中における各記号の単発／連続使用の内訳

レジスター	三点リーダー					二点リーダー				
	単発使用		連続使用			単発使用		連続使用		
	1回	複数回	1回	複数回	混合	1回	複数回	1回	複数回	混合
出版・書籍	30862	3298	5	0	0	132	7	2	0	0
出版・雑誌	4646	142	1	0	1	8	2	0	0	0
出版・新聞	607	12	0	0	0	1	0	0	0	0
図書館・書籍	38257	3281	3	0	0	77	1	0	0	0
特定目的・白書	203	8	0	0	0	0	0	0	0	0
特定目的・教科書	1219	66	0	0	0	0	0	0	0	0
特定目的・広報紙	5963	800	0	0	0	10	0	0	0	0
特定目的・ベストセラー	5609	425	0	0	0	3	0	0	0	0
特定目的・知恵袋	6496	262	319	16	7	202	6	38	0	1
特定目的・ブログ	17797	1793	1578	83	148	398	33	412	21	0
特定目的・韻文	132	4	1	0	0	0	0	0	0	0
特定目的・国会会議録	5	0	269	0	0	0	0	0	0	0
計	111796	10091	2176	99	156	831	49	452	21	1

1回：1文中に1回のみ出現／複数回：1文中に複数回出現／混合：1文中に単独と連続の両方が出現

ーパス（書籍、雑誌、新聞レジスター）、図書館サブコーパス（書籍レジスター）、特定目的サブコーパスの一部（白書、韻文、ベストセラーレジスター）のサンプルは、紙面から文字を入力し電子化されている。この際に西部ほか（2011）や山口（2011）で報告されている文字入力仕様に従って電子化されているが、その仕様の一つに「複数のリーダー・ダッシュは一つにまとめる」旨の記述が存在する（西部ほか 2011 p.57, 山口ほか 2011 p.21）。加えて、西部ほか（2011 p.57）で示されている資料では、複数の中黒によるリーダーの代替も一つの三点リーダーに置き換えるよう指示している。したがって、対象となるレジスターにおいてこのルールに沿って入力が行われていれば、原典で三点リーダーや二点リーダーが連続で使用されていても、BCCWJ上では単発の使用として表示され、また中黒の連続使用であっても単発の三点リーダーに置き換えられて表示されることになる。すなわち、先行研究や本研究で示されている三点リーダーの単発使用の多さ、並びに対象レジスターにおける亜種使用の少なさは、BCCWJ作成時の文字入力仕様を反映している可能性高いといえるだろう。裏を返せば、当該レジスターにおいて確認された連続使用があるいくつかの用例は、文字入力仕様に沿っておらず、原典における誤植や作成時の入力ミスがあるだろう。

5.3 句点・読点・中黒・ピリオドの連続使用

ここからは、句点・読点・中黒・ピリオドの集計結果について述べる。表1から明らかのように、これら亜種の使用はほとんどが知恵袋、ブログレジスターで見られるものである。

出版時の校正や BCCWJ 作成時の文字入力仕様を考慮すると、少ないながら存在する上記 2 レジスター以外での用例は誤植や入力ミスである可能性が考えられる。しかしその真偽の判定は困難であるため、本研究ではそれらを削除せずに、確認された用例として集計対象に含めたうえで報告する。また、方法で述べたように、これらの記号は 1 文字につき 1 つの点しか表していないため、1 回の使用につき最低でも 2 個連続で使用している文を抽出した。したがって、本節での「使用」という表現は、基本的に各記号の 2 個以上の連続使用を指す。

まず、表 5 にレジスターごとの各記号の単発使用または連続使用がある文の数を示す。

表 5 1 文中における亜種の複数回使用の有無

レジスター	句点		読点		中黒		ピリオド	
	1回	複数回	1回	複数回	1回	複数回	1回	複数回
出版・書籍	11	0	28	1	13	6	7	0
出版・雑誌	1	0	2	0	0	0	0	0
出版・新聞	0	0	0	0	1	0	0	0
図書館・書籍	3	0	11	1	2	2	3	1
特定目的・白書	0	0	2	0	0	0	0	0
特定目的・教科書	0	0	0	0	0	0	5	0
特定目的・広報紙	0	0	1	0	0	0	2	0
特定目的・ベストセラー	0	0	1	0	0	0	0	0
特定目的・知恵袋	10987	4	1474	71	31998	1750	1929	38
特定目的・ブログ	14325	32	3013	496	48236	5905	3071	54
特定目的・国会会議録	1	0	0	0	0	0	0	0
計	25328	36	4532	569	80250	7663	5017	93

どの記号においても 1 文中に 1 回使用がする文が多かった。三点リーダーや二点リーダーでも同様の結果であったことを考慮すると、リーダーは基本的には 1 文中に 1 回使用するという意識ないし規範が存在している可能性がうかがえる。

次に、表 6 に各記号の 1 回の使用における連続使用個数の集計値を示す。

表 6 亜種の 1 回の使用における連続使用個数についての集計値

記号	平均	標準偏差	最小値	第一四分位数	中央値	第三四分位数	最大値	最頻値
句点	4.47	5.57	2	2	3	3	170	3
読点	3.25	2.72	2	2	3	3	57	3
中黒	3.55	3.20	2	3	3	3	162	3
ピリオド	5.87	9.36	2	3	3	4	90	3

平均値は 3.25 個から 5.87 個とばらつきがみられたが、中央値と最頻値は 3 個で共通していた。実際に度数分布を確認したところ、以下の通りとなった (表 7)。

表 7 亜種の 1 回の使用における連続使用個数の度数分布表

連続使用 個数	句点		読点		中黒		ピリオド	
	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)
2	7470	(29.40%)	1943	(31.96%)	16475	(16.84%)	628	(12.00%)
3	12590	(49.56%)	3149	(51.79%)	64910	(66.35%)	3043	(58.13%)
4	1518	(5.98%)	526	(8.65%)	7661	(7.83%)	441	(8.42%)
5	664	(2.61%)	178	(2.93%)	3171	(3.24%)	363	(6.93%)
6	307	(1.21%)	69	(1.13%)	1329	(1.36%)	153	(2.92%)
7	208	(0.82%)	40	(0.66%)	684	(0.70%)	53	(1.01%)
8	194	(0.76%)	28	(0.46%)	382	(0.39%)	28	(0.53%)
9	166	(0.65%)	24	(0.39%)	271	(0.28%)	27	(0.52%)
10	142	(0.56%)	11	(0.18%)	442	(0.45%)	23	(0.44%)
11	157	(0.62%)	6	(0.10%)	207	(0.21%)	21	(0.40%)
12	118	(0.46%)	13	(0.21%)	187	(0.19%)	13	(0.25%)
13	146	(0.57%)	11	(0.18%)	174	(0.18%)	19	(0.36%)
14	119	(0.47%)	8	(0.13%)	163	(0.17%)	21	(0.40%)
15	139	(0.55%)	7	(0.12%)	138	(0.14%)	13	(0.25%)
16	132	(0.52%)	4	(0.07%)	199	(0.20%)	18	(0.34%)
17	117	(0.46%)	3	(0.05%)	128	(0.13%)	17	(0.32%)
18	157	(0.62%)	10	(0.16%)	130	(0.13%)	11	(0.21%)
19	104	(0.41%)	2	(0.03%)	111	(0.11%)	8	(0.15%)
20	106	(0.42%)	6	(0.10%)	116	(0.12%)	18	(0.34%)
21	90	(0.35%)	6	(0.10%)	92	(0.09%)	9	(0.17%)
22	87	(0.34%)	6	(0.10%)	114	(0.12%)	13	(0.25%)
23	86	(0.34%)	3	(0.05%)	93	(0.10%)	10	(0.19%)
24	74	(0.29%)	3	(0.05%)	94	(0.10%)	10	(0.19%)
25	83	(0.33%)	3	(0.05%)	74	(0.08%)	13	(0.25%)
26	57	(0.22%)	5	(0.08%)	74	(0.08%)	11	(0.21%)
27	52	(0.20%)	2	(0.03%)	59	(0.06%)	13	(0.25%)
28	45	(0.18%)	1	(0.02%)	45	(0.05%)	3	(0.06%)
29	26	(0.10%)	1	(0.02%)	29	(0.03%)	15	(0.29%)
30	33	(0.13%)	3	(0.05%)	35	(0.04%)	11	(0.21%)
31	18	(0.07%)	2	(0.03%)	28	(0.03%)	5	(0.10%)

表 7 皿種の 1 回の使用における連続使用個数の度数分布表 (続き)

連続使用 個数	句点		読点		中黒		ピリオド	
	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)
32	24	(0.09%)	0	(0.00%)	22	(0.02%)	14	(0.27%)
33	20	(0.08%)	0	(0.00%)	17	(0.02%)	5	(0.10%)
34	9	(0.04%)	1	(0.02%)	26	(0.03%)	9	(0.17%)
35	10	(0.04%)	0	(0.00%)	16	(0.02%)	11	(0.21%)
36	20	(0.08%)	1	(0.02%)	11	(0.01%)	6	(0.11%)
37	42	(0.17%)	1	(0.02%)	19	(0.02%)	8	(0.15%)
38	12	(0.05%)	0	(0.00%)	10	(0.01%)	12	(0.23%)
39	8	(0.03%)	0	(0.00%)	8	(0.01%)	5	(0.10%)
40	13	(0.05%)	0	(0.00%)	10	(0.01%)	14	(0.27%)
41	7	(0.03%)	0	(0.00%)	11	(0.01%)	4	(0.08%)
42	5	(0.02%)	1	(0.02%)	4	(0.00%)	4	(0.08%)
43	5	(0.02%)	0	(0.00%)	5	(0.01%)	3	(0.06%)
44	1	(0.00%)	0	(0.00%)	5	(0.01%)	10	(0.19%)
45	5	(0.02%)	1	(0.02%)	6	(0.01%)	4	(0.08%)
46	3	(0.01%)	0	(0.00%)	2	(0.00%)	5	(0.10%)
47	2	(0.01%)	0	(0.00%)	3	(0.00%)	5	(0.10%)
48	0	(0.00%)	0	(0.00%)	2	(0.00%)	5	(0.10%)
49	4	(0.02%)	0	(0.00%)	5	(0.01%)	8	(0.15%)
50	0	(0.00%)	1	(0.02%)	1	(0.00%)	8	(0.15%)
51	0	(0.00%)	0	(0.00%)	2	(0.00%)	8	(0.15%)
52	0	(0.00%)	0	(0.00%)	1	(0.00%)	2	(0.04%)
53	0	(0.00%)	0	(0.00%)	4	(0.00%)	2	(0.04%)
54	2	(0.01%)	0	(0.00%)	2	(0.00%)	5	(0.10%)
55	0	(0.00%)	0	(0.00%)	0	(0.00%)	8	(0.15%)
56	1	(0.00%)	0	(0.00%)	3	(0.00%)	2	(0.04%)
57	1	(0.00%)	1	(0.02%)	3	(0.00%)	5	(0.10%)
58	1	(0.00%)	0	(0.00%)	1	(0.00%)	7	(0.13%)
59	0	(0.00%)	0	(0.00%)	2	(0.00%)	0	(0.00%)
60	0	(0.00%)	0	(0.00%)	0	(0.00%)	5	(0.10%)
61	0	(0.00%)	0	(0.00%)	0	(0.00%)	2	(0.04%)

表 7 亜種の 1 回の使用における連続使用個数の度数分布表 (続き)

連続使用 個数	句点		読点		中黒		ピリオド	
	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)
62	1	(0.00%)	0	(0.00%)	2	(0.00%)	0	(0.00%)
63	1	(0.00%)	0	(0.00%)	0	(0.00%)	2	(0.04%)
64	0	(0.00%)	0	(0.00%)	0	(0.00%)	2	(0.04%)
66	1	(0.00%)	0	(0.00%)	2	(0.00%)	1	(0.02%)
67	0	(0.00%)	0	(0.00%)	0	(0.00%)	2	(0.04%)
68	0	(0.00%)	0	(0.00%)	1	(0.00%)	1	(0.02%)
69	0	(0.00%)	0	(0.00%)	0	(0.00%)	1	(0.02%)
70	0	(0.00%)	0	(0.00%)	0	(0.00%)	1	(0.02%)
71	0	(0.00%)	0	(0.00%)	0	(0.00%)	1	(0.02%)
72	0	(0.00%)	0	(0.00%)	1	(0.00%)	0	(0.00%)
75	0	(0.00%)	0	(0.00%)	0	(0.00%)	1	(0.02%)
76	0	(0.00%)	0	(0.00%)	0	(0.00%)	1	(0.02%)
77	0	(0.00%)	0	(0.00%)	0	(0.00%)	1	(0.02%)
79	0	(0.00%)	0	(0.00%)	0	(0.00%)	1	(0.02%)
80	0	(0.00%)	0	(0.00%)	0	(0.00%)	1	(0.02%)
85	0	(0.00%)	0	(0.00%)	0	(0.00%)	1	(0.02%)
90	0	(0.00%)	0	(0.00%)	1	(0.00%)	1	(0.02%)
96	0	(0.00%)	0	(0.00%)	1	(0.00%)	0	(0.00%)
97	0	(0.00%)	0	(0.00%)	1	(0.00%)	0	(0.00%)
113	1	(0.00%)	0	(0.00%)	0	(0.00%)	0	(0.00%)
162	0	(0.00%)	0	(0.00%)	1	(0.00%)	0	(0.00%)
170	1	(0.00%)	0	(0.00%)	0	(0.00%)	0	(0.00%)

最頻値からわかるように、どの記号においても連続使用個数は 3 個が最多で、約 50% を占めていた。次いで 2 個連続使用が多くなっているが、句点と読点ではそれぞれの全体の約 30% ほどであったのに対して、中黒とピリオドはそれぞれ約 17% と 12% と、若干の傾向の違いがみられた。4 個以上の連続使用については、使用個数の多さにおおむね比例して出現頻度が低くなっていた。

また複数回の使用がある文において、連続使用の上限の傾向を見るために各記号の最長連続使用個数を集計した。その結果を表 8 に示す。例えば、「これは。。例文です。。。」という文では最長連続使用は 3 個となる。これについても、すべての記号において 3 個連続使用が最も多く約 43~60% 程度、次に 2 個連続使用が多く約 17~28% を占めていた。

以上の結果から、句点、読点、中黒、ピリオドの連続使用によるリーダーの代替は、基本的には各記号の 3 個連続使用で行われていると推察される。亜種の使用において、書き手が

表 8 亜種の 1 回の使用における最長連続使用個数の度数分布表

最長連続 使用個数	句点		読点		中黒		ピリオド	
	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)
2	10	(27.78%)	122	(21.44%)	1298	(16.94%)	19	(20.43%)
3	18	(50.00%)	319	(56.06%)	4577	(59.73%)	40	(43.01%)
4	4	(11.11%)	57	(10.02%)	929	(12.12%)	4	(4.30%)
5	3	(8.33%)	38	(6.68%)	379	(4.95%)	14	(15.05%)
6	0	(0.00%)	15	(2.64%)	188	(2.45%)	0	(0.00%)
7	0	(0.00%)	7	(1.23%)	122	(1.59%)	5	(5.38%)
8	0	(0.00%)	7	(1.23%)	48	(0.63%)	3	(3.23%)
9	0	(0.00%)	3	(0.53%)	29	(0.38%)	1	(1.08%)
10	0	(0.00%)	1	(0.18%)	23	(0.30%)	0	(0.00%)
11	0	(0.00%)	0	(0.00%)	14	(0.18%)	0	(0.00%)
12	0	(0.00%)	0	(0.00%)	9	(0.12%)	0	(0.00%)
13	0	(0.00%)	0	(0.00%)	7	(0.09%)	0	(0.00%)
14	0	(0.00%)	0	(0.00%)	6	(0.08%)	0	(0.00%)
15	0	(0.00%)	0	(0.00%)	6	(0.08%)	1	(1.08%)
16	0	(0.00%)	0	(0.00%)	6	(0.08%)	1	(1.08%)
17	0	(0.00%)	0	(0.00%)	3	(0.04%)	1	(1.08%)
18	0	(0.00%)	0	(0.00%)	1	(0.01%)	0	(0.00%)
19	0	(0.00%)	0	(0.00%)	1	(0.01%)	0	(0.00%)
20	0	(0.00%)	0	(0.00%)	1	(0.01%)	0	(0.00%)
21	1	(2.78%)	0	(0.00%)	4	(0.05%)	0	(0.00%)
22	0	(0.00%)	0	(0.00%)	1	(0.01%)	0	(0.00%)
23	0	(0.00%)	0	(0.00%)	0	(0.00%)	1	(1.08%)
24	0	(0.00%)	0	(0.00%)	0	(0.00%)	1	(1.08%)
25	0	(0.00%)	0	(0.00%)	1	(0.01%)	0	(0.00%)
27	0	(0.00%)	0	(0.00%)	1	(0.01%)	0	(0.00%)
28	0	(0.00%)	0	(0.00%)	1	(0.01%)	0	(0.00%)
29	0	(0.00%)	0	(0.00%)	1	(0.01%)	0	(0.00%)
30	0	(0.00%)	0	(0.00%)	4	(0.05%)	1	(1.08%)
32	0	(0.00%)	0	(0.00%)	1	(0.01%)	0	(0.00%)
34	0	(0.00%)	0	(0.00%)	1	(0.01%)	0	(0.00%)
37	0	(0.00%)	0	(0.00%)	1	(0.01%)	0	(0.00%)
75	0	(0.00%)	0	(0.00%)	0	(0.00%)	1	(1.08%)

を打ちたい場合には記号を三つ並べる」という意識が共有されている可能性が考えられる。また、3連続使用が多かった要因の一つとして、入力操作の簡便性も挙げられるだろう。パソコンのキーボードで三点リーダー記号(…)を入力する際には、「さんてん」と入力、または「>. . る」キーや「?・/め」キーを3回連続で押した後に、変換して表示された候補のなかから選択し入力を確定させる必要があるが、亜種による代替であれば対応するキーを3連打して入力を確定させるだけで済む。わずかな違いではあるものの、書き手が変換するわずらわしさを嫌い、当該記号の3連打で済ませている可能性も考えられる。

6. 本研究のまとめと今後の課題

本研究はBCCWJにおける三点リーダーとその亜種(二点リーダー、および句点・読点・中黒・ピリオドの連続使用)の使用実態について集計を行った。その結果、以下の点が明らかとなった。(1) 記号の中では三点リーダーを含む文が最も多く、法律レジスター以外のレジスターで確認された。亜種を含む文はほとんどが知恵袋、ブログレジスターで確認された。亜種の中では中黒が最多であった。(2) 三点リーダーと二点リーダーはいずれも2個以上の連続使用より単発使用が多かった。ただし、BCCWJ作成時の文字入力仕様によって単発使用に置き換えられた可能性がある。(3) どの記号も1文中に1回使用する用例が多かった。リーダーは1文中に1回のみ使うという意識ないし規範の存在が考えられる。(4) 亜種の使用は、各記号の3連続使用の用例が最も多かった。書き手が「3つ点を打つ」という意識を共有している可能性がある。

今後の課題としては、先行研究で行われていた文中での付与位置によるフィルタリング・集計や共起語の分析を行うことが挙げられる。本研究により、三点リーダーを含む文は各レジスターに存在することが明らかになっている。そのため、レジスターごとに比較することで、三点リーダーの使用実態についてより理解を深めることができるだろう。また、今回得られたデータの計量的な分類を行い、先行研究で示されている用法の分類の妥当性検証を試みることも有益だと考えられる。

文 献

- 遠藤純 (1962). 「今の作家は補助符号をどう使っているか—特に、「ダッシュ」と「てんてん」について—」『言語生活』(133), pp.78-82. 筑摩書房
- 前川喜久雄 (監修) 山崎誠 (編) (2014) 『書き言葉コーパス—設計と構築—』, 講座日本語コーパス 2. 朝倉書店.
- 新實葉子 (2019). 「日本語の小説における符号による表現に関する一考察」 『朝日大学留学生別科紀要』(16), pp.37-39.
- 西部みちる・大島一・間淵洋子・小林正行・田島孝治・高田智和・山口昌也 (2011). 「『現代日本語書き言葉均衡コーパス』における電子化テキストの構築」 国立国語研究所内部報告書 ,LR-CCG-10-03. 国立国語研究所. <https://doi.org/10.15084/00002853>
- R Core Team (2024). “R: A Language and Environment for Statistical Computing”, R Foundation for Statistical Computing, Vienna, Austria. <https://www.R-project.org/>
- 清千夏 (2022). 「打ちことばにおける三点リーダーの役割 —Twitter と現代日本語書き言葉均衡コーパスを比較して—」 『語文』(173), pp.61-80. 日本大学国文学会
- 小学館辞典編集部 (2007). 『句読点、記号・符号活用辞典。』 小学館
- 浦温美 (2024). 「BCCWJ と LINE における文末の三点リーダーと感嘆符「…！」の使用実

態」 『言語資源ワークショップ 2024 発表論文集』, pp.225-231.

Hadley Wickham and Mara Averick and Jennifer Bryan and Winston Chang and Lucy D'Agostino McGowan and Romain François and Garrett Grolemund and Alex Hayes and Lionel Henry and Jim Hester and Max Kuhn and Thomas Lin Pedersen and Evan Miller and Stephan Milton Bache and Kirill Müller and Jeroen Ooms and David Robinson and Dana Paige Seidel and Vitalie Spinu and Kohske Takahashi and Davis Vaughan and Claus Wilke and Kara Woo and Hiroaki Yutani (2019). “Welcome to the tidyverse”, *Journal of Open Source Software*, 4:43, pp.1686.

<https://doi.org/10.21105/joss.01686>

山口昌也・高田智和・北村雅則・間淵洋子・大島一・小林正行・西部みちる (2011). 「『現代日本語書き言葉均衡コーパス』における電子化フォーマット ver.2.2」国立国語研究所内部報告書, LR-CCG-10-04. 国立国語研究所. <https://doi.org/10.15084/00002854>

山木幹人 (1962). 「文章上の符号 「一」と「……」の特徴的性格」『言語生活』(133), pp.69-77. 筑摩書房

安井寿枝 (2006). 「『細雪』の表現：発話文に見られる「一」（ダッシュ）と「……」（リーダー）の用法」『甲南大学紀要.文学編』(143), pp.49-69.

関連 URL

コーパス検索アプリケーション『中納言』

<https://chunagon.ninjal.ac.jp/>